

「平穩死」シリーズ 全8回(その3)



「平穩死」シリーズ③

医療界でもあまり知られていません。

さて、認知症終末期になり、嚥下困難に陥ると施設側から胃ろうを勧められることがよくあります。胃ろうは病院だけが好んでつくるだけではありません。施設側からも食事介助の手段が大変なので、胃ろう造設を要望されるケースが増加しています。

胃ろうは当初は確かにいいんです。胃ろうで栄養状態が良くなり、床ずれが治る。すると、また口から食べられるようになるという好循環に。しかし、いつかはまた食べられない時期が来ます。結局、

特別養護老人ホーム 身体上または精神上、著しい障害があり、介護保険制度で「要介護」の判定が出た人が利用可能な老人福祉法上の老人福祉施設。略して「特養」と呼ばれる。

す。

東京の清水坂あじさい荘という特別養護老人ホームは看取りに積極的な施設です。入所者が亡くなると正面玄関から出て行きます。昔から病院で亡くなった人は、こっそり裏口から出るのが慣例です。そんな常識を覆すかのよう

に、ご遺体をセレモニーとして正面玄関から送り出すことは、最初は大変勇気のいる行

なりました。延命治療を受けることに

なりました。延命治療を受けることに

なりました。延命治療を受けることに

なりました。延命治療を受けることに

「看取り」に積極的

高齢の在宅患者さんを訪問していると、いつも言われま

に入ることが最大の親孝行

私が入れている在宅医

しかし、現実には寝たきり

の在宅医療ほどこりやすいも

正面玄関から見送る介護施設

いったん始まった人工栄養と

家族が中止したいと願う時期

でもかなわない傾向にありま

「ここは本場に

私がかえした理由は3つ。ま



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。関西国際大学客員教授。53歳。ブログ(<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/>)が好評。